建研 Web マガジン えぴすとら 第 15 号

Epistula

国立研究開発法人 建築研究所 Building Research Institute

Vol. 101（通算）発行:2025.10

都市公園を活用した公共施設の建替えで公園と都市を活性化させる

(1) はじめに

老朽化した公共施設を都市公園と入れ替えて建替えることで、建替えの費用を抑えようとする事例が増えています。しかし公園は、木々の成長とともに鳥などの生き物が増え、都市の気温上昇を抑える効果なども増すため、みだりに壊してはなりません。建築研究所では、公園と都市の機能や魅力を向上させて都市を活性化させる建替えに着目して、福岡市の４公園の５事例を研究。本号では２つの公園の事例を紹介します。

(2) 街の変化への対応から防災拠点機能の向上と公園からの街の変化へ（藤田公園）

藤田公園は、1968 年に博多駅を移転するまちづくりの際に児童公園として開園。2000 年に博多警察署が公園内に建替えられることになりましたが、公園周辺の街も変化してきたことから、オフィスで働く人々の憩いの場になるように再整備しました。

その後、2022 年には公園内に博多区役所を移転。仮設庁舎を設けずに移転ができたので、事業費を少なくすることができました。新しい区役所は、公園を２つに分けてしまうことになるため、公園との一体感の確保を検討。あわせて公園と一体の設計と工事による防災拠点の機能向上や費用削減、隣の民間ビルの建替えとの連携などの議論と検討を重ねました。

現在は区役所跡地で公園を再整備中で、公園と緑や歩行者空間でつながる 2 棟のホテルが建替えられています。他にも周辺ではビルの建替えや建替えを検討中のビルがあります。街の変化に対応する公園の姿から、街を変えつつある公園の新たな姿が見られます。

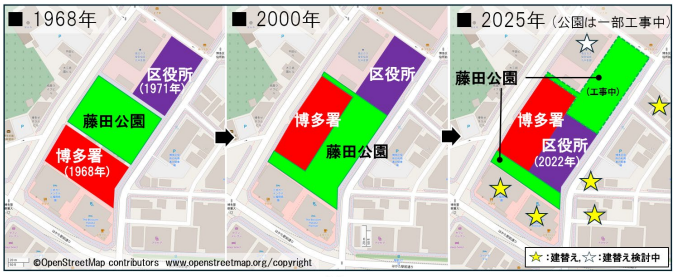

図1　藤田公園

(3) 緑と文化芸術の拠点づくりと川に開かれたまちづくり（須崎公園）

須崎公園は、都心の天神地区にあり、博多港に繋がる那珂川に近い場所に 1943 年に都市計画されました。1960 年には計画を広げて、那珂川沿いに約 4ha で開園しました。しかしその後、川に面した場所は市民会館や市営住宅に、中央部は県美術館の敷地になり、公園の面積は減少していました。

2010 年に老朽化した市民会館を休業せずに市民ホールに建替える検討が始まり、交通利便性と公園を活かした緑と文化芸術の拠点の形成、天神地区とウォーターフロントの回遊性向上による活性化など、まちづくりの視点で議論と検討を重ねました。市民ホールと公園の再整備は、民間事業者の資金とノウハウによる一体の設計と工事、運営がされることになり、2025 年３月に市民ホールが開業しました。

今後は市民会館跡地を再び公園にすることで、川沿いの見どころや他の公園とともに川に開かれたまちづくりの拠点として、公園と都市の機能と魅力を向上することで、都市の活性化を図っています。

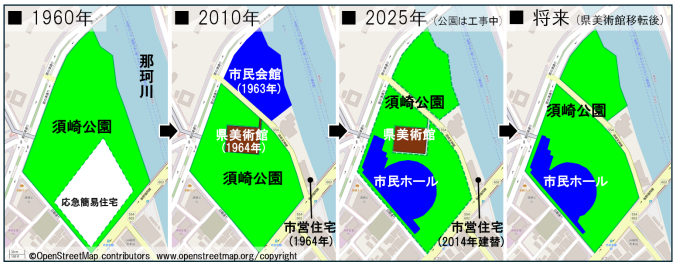

図2　須崎公園

(4) おわりに

研究では、地方公共団体が都市公園に公共施設を建替える際の参考となるように、議論や検討の経緯、都市計画や事業方式などを整理しています。都市公園と都市の活性化を通じて、私たちと将来の世代が快適な都市環境を享受できるよう努めてまいります。

●バックナンバーは、ホームページでご覧になれます。
https://www.kenken.go.jp/japanese/contents/publications/epistula.html

●えぴすとらに関するご意見、ご感想はこちらまで。
epistula@kenken.go.jp

住宅・都市研究グループ上席研究員　田畑正敏